

東京介護福祉士会に「青年部」

若者も職能団体に

2年前に介護福祉士会に入会した。職能団体の一員として、質向上や社会的評価の向上に取り組みたいと、強く思うよう

東京都介護福祉士会の「青年部」が本格的に活動を開始する。27日に開催するキックオフイベントの会場は、新宿区のカラオケ店だ。

介護福祉士会の組織率はわずか4%。加入するのが当たり前前の医療系専門職と比べて違いは歴然だ。

「気分わず、気軽に参加してもらえるように考えました」

金山さんは人一倍質の高い介護とは何かを考え続けてきた「哲学肌」の介護職だ。介護には絶対的な評価軸や正解がなく、個性が強いため、利用者にとって

そう話すのは、イベントの仕掛け人である金山峰之さん(32)。介護福祉士としてかれこれ10年以上働く中堅だ。職能団体である日本

巡っては現場でぶつかることもしばしばだ。金山さんはそれを「ケア観」の違いではと仮定し、「見える化」

になったという。

キックオフイベントでは、介護事業の経営者、役員、特養の施設長として活躍する30代の介護福祉士による「介護福祉士会と介護福祉士の未来」をテーマにした講演会を企画している。その後、懇親会も。

「介護福祉士会の非会員や『自称・青年』も歓迎です。若手が活躍できる環境を一緒に創っていきましょう」(金山さん)。

27日19時から。参加申し込みは専用応募フォーム
<https://goo.gl/jADso>
④、または03・5624・2821まで。



金山峰之さん

取り組みには限界を感じ、